

論 文 要 旨

| | | | | |
|--|--------------|--------------|-------------------|---|
| 専攻名 (又は推薦専攻名) | 地域イノベーション学専攻 | 氏 名 おりの な | いいた かおり 飯田 香緒里 |  |
| 学位論文題目 アカデミアによる新たな価値創造と必要な施策 —医療イノベーション創出環境の検証に基づく考察— (英訳又は和訳 : Creation of new value from Academia and necessary measures -Consideration on environments for medical innovation-) | | | | |
| <p>近年、大学、公的研究機関といったアカデミアは、科学技術の発展やイノベーション創出プロセスにおいて、主要なステークホルダーと位置付けられ、科学技術・イノベーション創出を牽引する主役としての役割が期待されている。</p> <p>この点、医薬・医療機器分野のイノベーションをめぐるのは、貿易赤字の拡大が続き、技術革新に伴うバイオ医薬品の台頭はじめ医療産業競争の激しさが進む中、従前よりアカデミアのシーズや臨床活動を活かした産学連携の推進が強く求められてきた。加えて、我が国は世界一の高齢化先進国として、世界に先んじて、高齢化社会及び健康長寿命の延伸に資する健康・ヘルスケア領域のイノベーションを牽引するべく、科学的なエビデンスに基づく、安心・安全な製品やサービスの創出に向けて、アカデミアが果たす役割は大きい。</p> <p>アカデミアが知の拠点として、そのポテンシャルを最大限発揮して、イノベーション創出に貢献していくためには、知的財産の管理、産学官連携活動含むイノベーション創出プロセス全体を通して、それらが円滑に推進するための環境整備が必要となる。とりわけ、医療・健康領域のイノベーションは他の領域にはないプロセスを辿るため、特殊性や困難性を伴うことから、当該性質を踏まえたイノベーション環境の整備が必要となる。</p> <p>そこで、本論では、医療系アカデミアに焦点を当てイノベーション創出環境に関する課題を整理、分析した上で、イノベーション創出にアカデミアが有するポテンシャルを最大限発揮するための方策を考察していくものとする。</p> <p>論文構成としては、第1章にて、研究の背景として、イノベーション創出をめぐるアカデミアに対する期待の高まる状況、医療イノベーションの特殊性及び、その中で医療系アカデミアが果たす役割等を述べる。</p> <p>次に、第2章では、2000年代前半から我が国大学の研究成果イノベーション創出環境整備の一環で講じられてきた法整備や公的支援事業の変遷を紹介しつつ、それによるアカデミアのイノベーション創出環境の変化を示す。続いて医療・健康領域のイノベーション創出に焦点を当て、医療系アカデミアのイノベーション環境に関する調査結果や医療系アカデミアのイノベーション創出に向けた取組事例を検証する。具体的には、第3章では、医療系アカデミアの産学連携実務者や製薬企業職員に対して実施したアンケート調査の結果を踏まえて、産学共同研究等のパートナーリングに関する産学間の認識を検証する。第4章では、医療系アカデミアの産学連携実務者に対して実施したアンケート調査の結果を踏まえて、アカデミアの産学連携実務体制に関する課題を検証する。第5章では、我が国において近年増加傾向にある組織間連携スキームについて、一医療系大</p> | | | | |

学の出組事例を用いて、その目的、効果、有用性等を検証する。最後、第6章では、結論として、アカデミアによるイノベーション創出環境における課題を総合的に分析した上で、必要かつ具体的な方策を述べる。

新型コロナウイルス感染症の発生により、医学的脅威の克服や、急激な生活様式の変化に人々が順応するといった直面している課題に対して、イノベーション創出は極めて重要な解決手段であることが再認識された。他方、近年は VUCA (Volatility、Uncertainty、Complexity、Ambiguity) 時代と表現されるように、急激なグローバル化やイノベーションサイクルが加速する中、将来の予測が難しい社会になってきている。そのような時代であるからこそ、より良い未来を実現するために、在りたい未来像を描きながらバックキャスト思考によるイノベーション創出にも積極的に取り組むべきであり、それには知の結節点とされる大学等アカデミアを中心に、企業や行政・市民等の多様なステークホルダーを巻き込んだ産学官共創の必要性はますます重要になってくる。

イノベーションを牽引する主役としての期待が高まるアカデミアの貴重な研究力、研究成果、イノベーション創出力が埋没することにならないように、科学技術立国としての矜持をもって、実効的な制度の設計とその実行に向けた考察に取り組むものである。

続紙 有 無